

食品中の放射性物質に関わる行政の調査結果及び関連情報
(1月15日～2月1日の情報)

1. 行政による放射性物質検査

福島第一原発事故が発生して以降、行政による検査が継続的におこなわれています。1月15日から2月1日までに7682件の検査がおこなわれました。基準を超えたものは14件でした。(厚生労働省のホームページから報告されている放射性物質検査の結果の概略から)。以下特徴についてまとめています。

2. 検査結果について

(1)検査結果の概要

1. 検査結果の抜粋(1月15日～2月1日の間に検査された検査結果)です。

※検査を全国の都道府県で実施されていますが、ここで公表するのは福島県に隣接する県、もしくは、その週に基準を超えたものが発表された都道府県とします。

	都道府県名	検査数	基準超 合計	今週基準を 超えたもの		都道府県名	検査数	基準超 合憲	今週基準を 超えたもの
福島県	農産物	65	0	—	栃木県	農産物	28	0	—
	畜産物	576	0	—		畜産物	1219	0	—
	水産物	244	0	—		水産物	0	0	—
	牛乳乳児用食品	14	0	—		牛乳乳児用食品	1	0	—
	野生鳥獣肉	0	6	イノシシ		野生鳥獣肉	20	7	イノシシ
	飲料水、その他	86	0	—		飲料水、その他	1	0	—
宮城県	農産物	50	0	—	群馬県	農産物	17	0	—
	畜産物	1005	0	—		畜産物	1188	0	—
	水産物	70	0	—		水産物	1	0	—
	牛乳乳児用食品	6	0	—		牛乳乳児用食品	0	0	—
	野生鳥獣肉	13	1	イノシシ		野生鳥獣肉	0	0	—
	飲料水、その他	4	0	—		飲料水、その他	3	0	—
茨城県	農産物	31	0	—	千葉県	農産物	11	0	—
	畜産物	884	0	—		畜産物	193	0	—
	水産物	67	0	—		水産物	40	0	—
	牛乳乳児用食品	3	0	—		牛乳乳児用食品	0	0	—
	野生鳥獣肉	0	0	—		野生鳥獣肉	0	0	—
	飲料水、その他	0	0	—		飲料水、その他	12	0	—

表2. 福島県で採取された沿岸魚の検査結果の傾向(2013年3月26日の検査結果とここ最近の検査結果の比較)

検査結果判明日	検出限界以下となった割合	基準は超えていないが、何らかの数値が検出された割合	基準を超えた割合
2013年3月26日	52.6%	41.4%	5.9%
2018年 2月25日	98.9%	1.1%	0.0%
2018年 3月 4日	99.3%	0.7%	0.0%
2018年 3月11日	98.1%	1.9%	0.0%
2018年 3月18日	98.6%	1.4%	0.0%
2018年 3月25日	98.3%	1.7%	0.0%
2018年 4月 1日	99.6%	0.4%	0.0%
2018年 4月 8日	98.5%	1.5%	0.0%
2018年 4月15日	98.9%	1.1%	0.0%
2018年 4月22日	99.2%	0.8%	0.0%
2018年 5月 6日	100%	0.0%	0.0%
2018年 5月13日	100%	0.0%	0.0%
2018年 5月20日	98.0%	2.0%	0.0%

2018年 5月27日	98.3%	1.7%	0.0%
2018年 6月 1日	100%	0.0%	0.0%
2018年 6月 8日	98.4%	1.6%	0.0%
2018年 6月15日	99.2%	0.8%	0.0%
2018年 6月22日	99.1%	0.9%	0.0%
2018年 6月29日	100%	0.0%	0.0%
2018年 7月 6日	100%	0.0%	0.0%
2018年 7月13日	98.1%	1.9%	0.0%
2018年 7月20日	100%	0.0%	0.0%
2018年 7月27日	100%	0.0%	0.0%
2018年 8月 3日	100%	0.0%	0.0%
2018年 8月17日	100%	0.0%	0.0%
2018年 9月14日	99.5%	0.5%	0.0%
2018年 10月 5日	99.6%	0.4%	0.0%
2018年 11月 9日	99.7%	0.3%	0.0%
2018年 12月7日	99.8%	0.2%	0.0%
2018年 12月14日	100%	0.0%	0.0%
2018年 12月21日	99.1%	0.9%	0.0%
2019年 1月11日	99.6%	0.4%	0.0%
2019年 2月 1日	99.7%	0.3%	0.0%
2018年2月平均	98.9%	1.1%	0.0%

基準を超えた沿岸魚はみつかりませんでした。これで184週連続(約3年)となります。福島県の358検体の水産物(海洋)が検査されました。今週の結果で、放射性セシウムが検出された魚介は1検体でした。

1検体はいわき市のナメタガレイ(11 ベクレル/キログラム)でした。

(2)検査について基準を超えたものについて

①栃木県で捕獲された野生鳥獣について基準値を超える放射性セシウムが検出された旨、公表されました。

ア. 栃木県茂木町:イノシシ(140 ベクレル/キログラム)

イ. 栃木県那珂川町:イノシシ(240,110130330,110 ベクレル/キログラム)

ウ. 栃木県大田原市:イノシシ(220 ベクレル/キログラム)

栃木県で捕獲されたイノシシについては、すでに出荷制限措置がとられているため市中には出回っていません。

②福島県で捕獲された野生鳥獣について基準値を超える放射性セシウムが検出された旨、公表されました。

ア. 福島県須賀川市:イノシシ(110,110,240 ベクレル/キログラム)

イ. 福島県郡山市:イノシシ(150 ベクレル/キログラム)

ウ. 福島県矢祭町:イノシシ(3600 ベクレル/キログラム)

エ. 福島県相馬市:イノシシ(460 ベクレル/キログラム)

福島県で捕獲されたイノシシについては、すでに出荷制限措置がとられているため市中には出回っていません。

③宮城県で捕獲された野生鳥獣について基準値を超える放射性セシウムが検出された旨、公表されました。

ア. 宮城県丸森町:イノシシ(130 ベクレル/キログラム)

宮城県で捕獲されたイノシシについては、すでに出荷制限措置がとられているため市中には出回っていません。

(3)京都の空間線量(1月15日～2月1日)

京都市の空間線量は(16.9メートル地点)、0.038～0.050 マイクロシーベルト/1時間、1メートルの高さの推計値は0.045～0.060 マイクロシーベルト/1時間と

なっています。福島市の空間線量は(2.5メートル地点)は0.097～0.11 マイクロシーベルト/1時間(1メートル地点は0.13～0.14 マイクロシーベルト/1時間)となっています。福島県で空間線量が一時的に0.086 ベクレル/キログラムとなった日もありました。これは、日本でも空間線量が高い、山口県とほぼ同じ値です。ただ、

過去の平均は 0.038～0.046 マイクロシーベルト/1時間(2.5メートル地点)となっておりまだ高い空間線量となっています。

3. 関連情報

(1)食品の安全 県民意識調査「放射性物質への不安」増加(東京新聞より)

食品中の放射性物質について「基準値を超えていなければ安心」と考える県民は 42.4%で、四年前の前回調査より 5.6 ポイント減少したことが県の 2018 年度「食品の安全等に関する県民意識調査」で分かった。これに伴い「基準値を超えていなくても不安」も 41.7%で、前回調査より 3.2 ポイント増加した。食品の放射性物質に対する不安が根深い現状がうかがえる。

性別に見ると、「基準値を超えていなくても不安」は女性が 44.1%と男性の 38.6%より多い。

年代別では、「基準値を超えていなくても不安」は最多が三十代の 50.5%。次いで七十代以上の 43.8%、四十代の 43.6%と続いた。

一方、「(東京電力)福島第一原発事故後、食品購入に当たって産地に関する意識の変化はあったか」と聞くと、「原発事故直後は変化したが、現在は以前と同じに戻った」が 56.7%となり、前回調査より 8.4 ポイント増加。原発事故の影響は薄らいできたが、事故を契機に放射性物質全体に対する不安は高まっている傾向が表れた。

記載欄では、三十代の女性が「子どもたちに将来、影響が出ないように検査をしっかりとしてほしい」と対応を促した。六十代の男性も「県内で販売する野菜などに含まれる放射性物質の測定結果を地域別に知らせてほしい」と求めた。性別や年代は不明だが、「時々ニュースになるように食品事業者の法令順守意識が低く、不安を感じる」との指摘もあった。

調査は昨年八～九月、無作為に抽出した十八歳以上の男女二千人に郵送で依頼し、50.8%から回収した。

以上